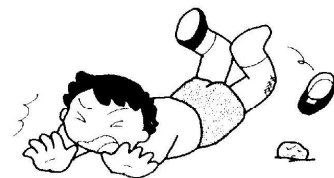


私の失敗

人は失敗するとその直後は当然落ち込んでしまいます。事によっては氣力をそう失ってしまったり、人に会うことがいやになることさえあります。しかし、どんなに強烈なダメージを受ける失敗にしても人間はちゃんと立ち直ることができる力を生まれながら持っているものです。転んで膝小僧をすりむいてしまっても何日か経てばかさぶたになってさらには元通りの皮膚を復元してくれるように。もちろんお医者さんの力を借りなければ治らない重傷はその限りではありませんが。人には自己治癒力があると同時に時間の経過が解決してくれる場合もあります。話せるようになった失敗は自分にとって完全回復したものと言えます。と同時に聞く人にとっては不思議なことに結構楽しいものです。



さて、私がまだ学級担任をしていた頃の大昔の話です。

その日は私の授業を指導主事(教師の授業を指導してくれる先生)や校内の先生方に見てもらって授業研究をする日でした。

朝、私が受け持ちの教室へ入るとすでにきちんと生徒が着席しているではありませんか。おかしいな、いつもは2、3人必ず立ち歩いていて私の姿を見てあわてて着席するのに…。ともあれ教室に入ると同時に元気な声で当番の「起立！」の号令がかかります。生徒の顔にはこれからはじまるお客さんの前での授業にすでにやや緊張感がみられます。そうです、まず生徒の緊張をやわらげることがふだん通りの授業を行うための私の大事な仕事です。生徒に言いました。

「このあと、背のちっちゃい頭のはげた指導主事がみんなの授業を見に来るけどたいした先生じゃないからリラックスして授業を受けような。」

まだ緊張しているのか生徒に返事がない。

「さあ、いつものとおりにやろう。はい、挨拶しよう！」

「礼 着席」「あーいさつに元気がない やりなおし」「礼！ 着席！」

生徒と一緒に深々と始業の礼をして顔をあげると……何と……

教室の最後部で着席した生徒の頭と同じ高さでにこやかに笑う朝日に輝く指導主事の頭がありました。

この日の研究授業は、生徒はふだん通りにできましたが自分の緊張感とはずかしさは数ヶ月癒えませんでした。

私がこの話を告白できるまでに20年以上の歳月を要しました。